古奴ひ物語
巻
源
へ13
3838
2

# 古ぬひ玉物語

種貧作

豐國

七編上冊

藤岡屋版

門へ13
號 3838
巻 2

豊国画
七編上
七編下

八編上
藤岡屋板
八編下
種員作
豐國画

錢湯ハ並ぶ髪結床ハ隣家ハ垢のたまり序已櫛の齒を埋るもおかしく
大狄羅鄽の傍ハ荷居ハ夜蕎麥賣ハ彼揚鍋の湯氣を借て此振舞を
潤ありるべし　それもハ催異ぶも此書ハ[illegible]ぬひも一陽齋が筆の妙手ハ
依く流行禅史の數ハいろ〳〵と噂をきけり當年ハ格別丹誠を盡し
人物ハ[illegible]更あり屋体圖より衣服の模様或景色ハ至迫至極微細ハ
画つれば是と前文のと比をるハ梵加減ハ新造風呂の板間を編木ぐ
ハ洗ふ[illegible]ハ近頃用る藤竹屑で磨き又揚物屋ハ濱川鰐鉈切鰕等
鮮き東西の限をて榧の油で調ぶたるにゑ〳〵といふべく弥者官の御意ハ
的ひ益愛顧　ハ[illegible]ハ[illegible]それハ透引く夜鬻の下品可漏子剃
初心の未熟髪結ハ[illegible]劣し僕ハ拙作ハ聊ハ江湖ハ告ハ事もあるべし

嘉永壬子正月

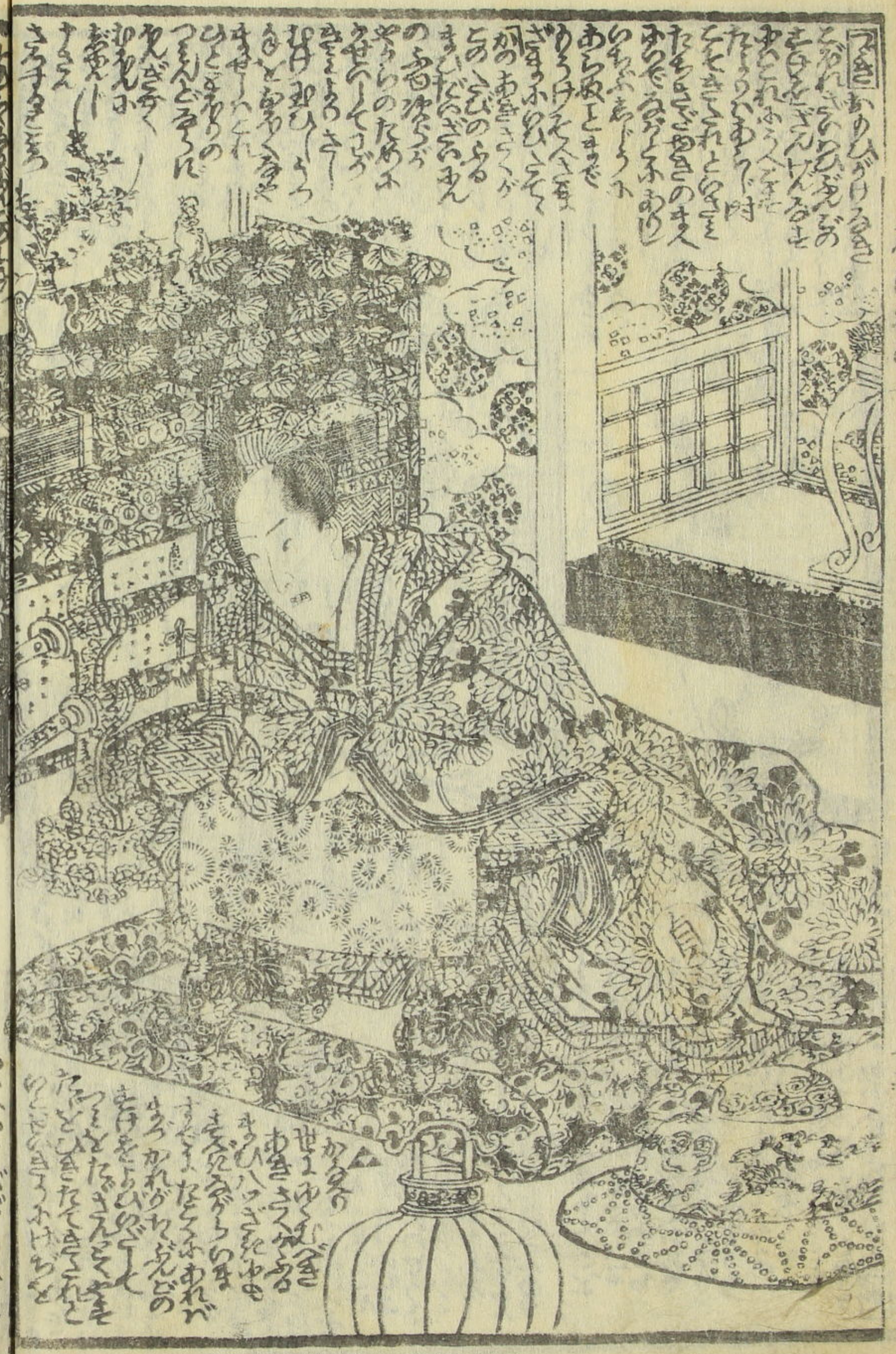
柳下亭種員記

秋

比丘尼
ヨヌ門
夢物語と
合巻
芝居
ベー
村医
真平ダ
霊

渦九郎
磐九郎
昔物語
嶋山の
落葉
小島
一子
典膳
渦九郎
遺言
七

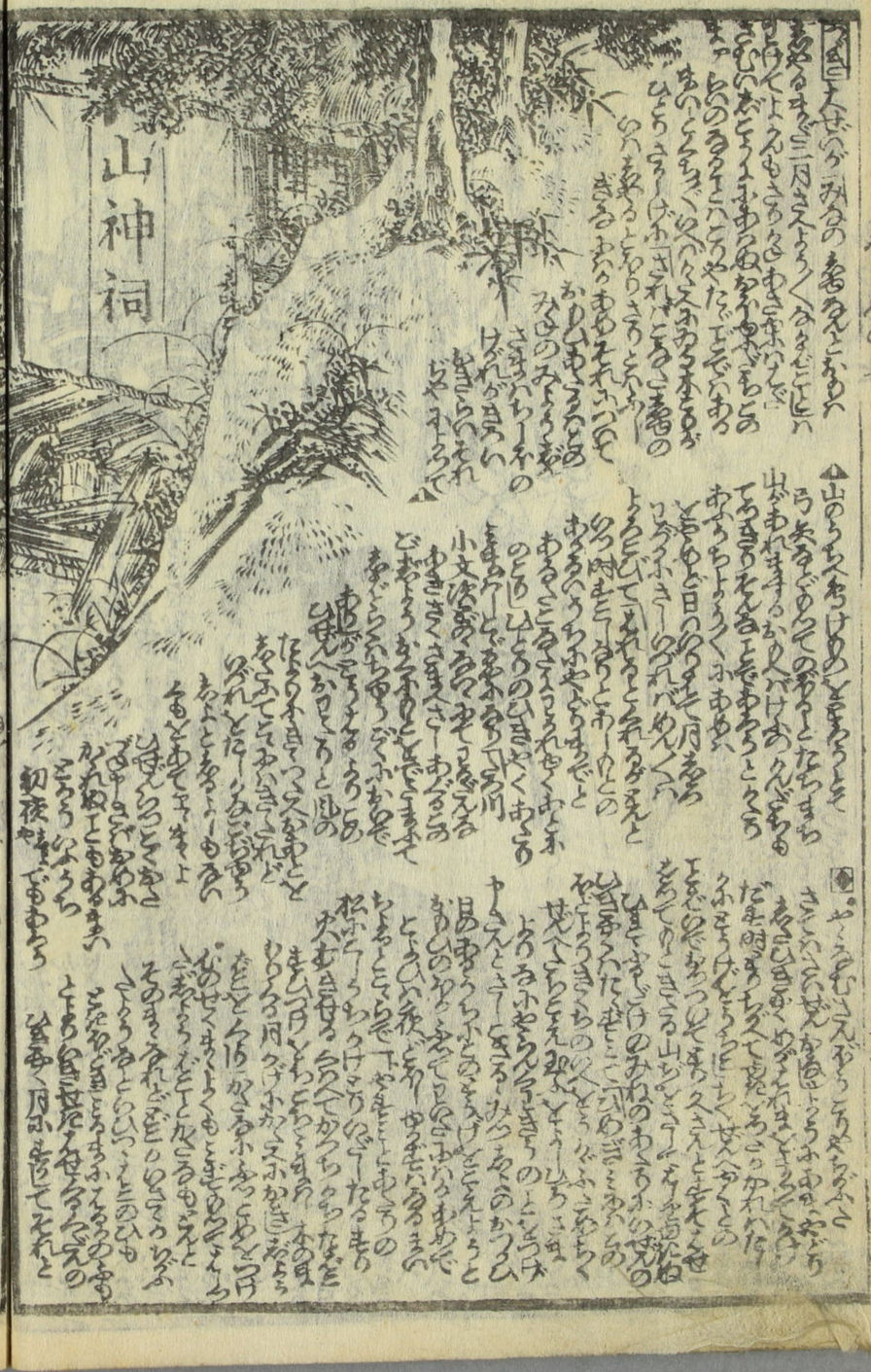
種員作
豐國画



比画ハ豊後助自行を諫る言の
うちふの菊地修理大夫秀行
末期の体也
十余年
まくの事と見るべし



雪岡たどの
ヨク大夫


山神祠

山神祠
若
秋

種員作豊國画



不知火物語第八編叙

碁石の黒白ハ其色異ふ〻同物あり是等てさして反對と称ぜそ此巻中の若菜姫鳥山秋作も又然心小邪正の懸隔ありけれども所業ハ髣髴女丈夫英勇勝負を爭ふ互角扃枝粘を断照忠の脅力剣と鬆嬢子の妖術錦ヶ嶽の鉄蜴のくも手小條を引張り策子の盤面敲散〜頻小工夫ハ懲ども好作意と視ぞ妙手ハ出も下手の考案止小似るに常言も的哉と拙き自を歎じ只管冀習官の御助言所謂他見八目の八編の序ハ囲碁の詞本據て斯ハ記つ

嘉永壬子開歳

柳下亭種員

梅京書

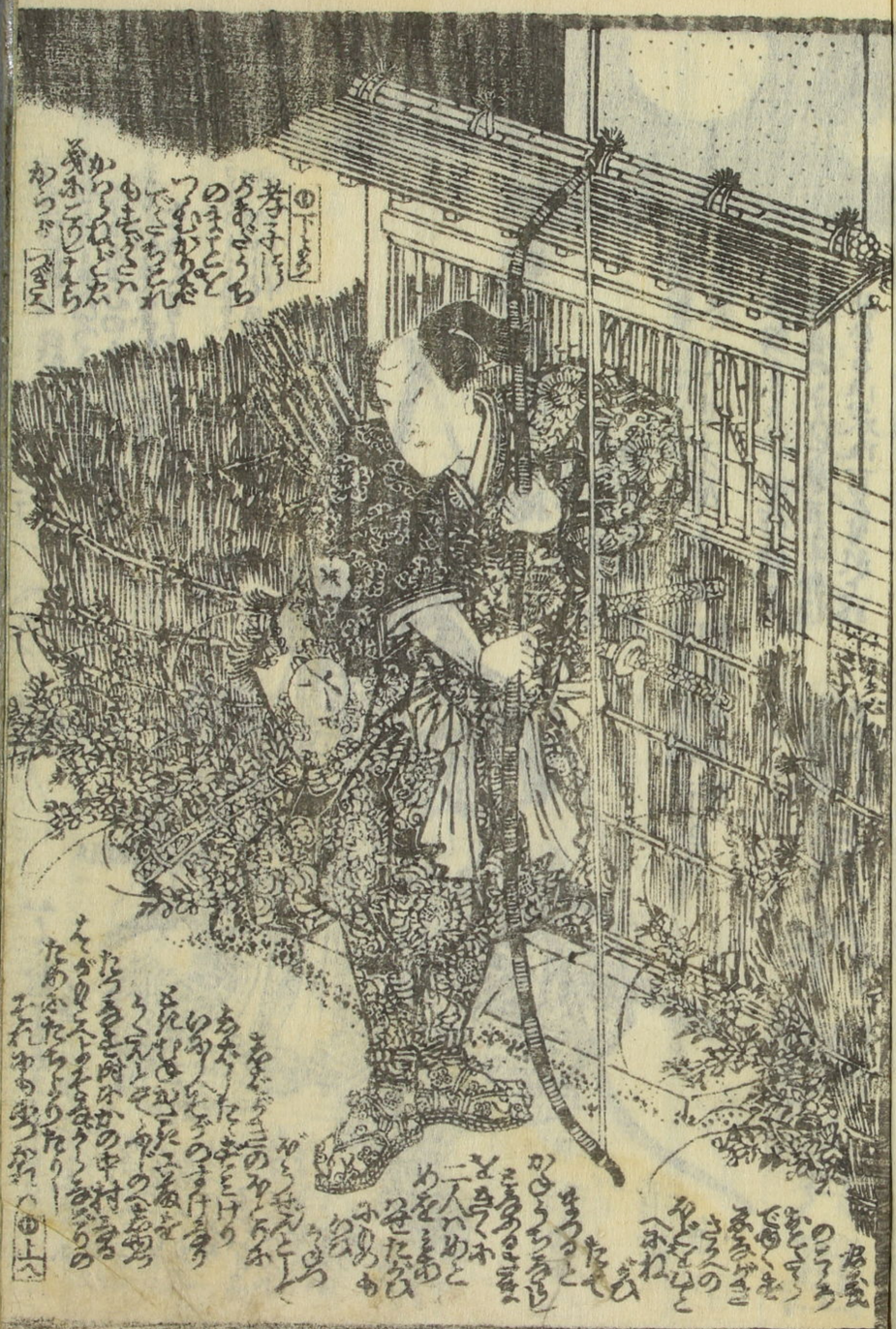
大亀家

種員作豊國画

清書
金川

六
七

○此一丁ハ勢多津六郎が
第七郎へのあぐち
と見果べし



七草四郎
若菜姫

地本問屋 廣岡屋幸助板